

めぐみ 慈心

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒 800-0035 北九州市門司区別院6番1号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒 800-0057 北九州市門司区大里新町11番7号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



芳田司選手と柔道部顧問・部員の皆さん

いっしょ

優越感の正体は劣等感である

曾我量深

私たちは、日々あらゆるものを比較し、比較することで物の価値を見定めようとする思考の下に暮らしています。比べた結果は単なる事実すぎませんが、それを私の基準に当てはめようとするがゆえに、序列が生まれ、善し悪しが分かれ、それが自分と他者との比較の中で、優越感や劣等感へと変わっていきます。さらに、優越感や劣等感は自己を誇示し人を蔑み、劣等感や劣等感を感じた人を妬む、そのような感情につながることもあります。私の心の中には、人よりも良くありたいという思いが、拭い去りがたく存在しているようです。

だからといって、比べることをやめることはできません。しかしその結果から見えてくるものは、あくまでも一面的で相対的なもの。あまりにも結果にとらわれ過ぎると、本当の私の姿が見えなくなってしまう。

それよりも私たちは、自分自身が、どんなに客観的な事実を前にしても、それを主観的にしか見ることができない存在であること、また、私の価値観を通して見ているものを、それがすべてであり、絶対的なものであると思ってしまう危うさを宿しているということを認識しておかなければなりません。

比較によって生じる優劣に自己の価値を見出すのではなく、私がこの世界にただひとりの私として、誰とも比べる必要のない存在であり、あるがままの私があるがままに尊厳を心に留めておきたいと思えます。あらゆるものが、共にかけがえない存在であることに気づかされるとき、それぞれが独自の輝きを放ちながら形作られるこの世界の、色鮮やかな景色が見えてくるのではないのでしょうか。

敬愛高等学校 第72回卒業証書授与式 校長式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。みなさんにとって、この3年間はどのようなものだったか。入学時に思い描いていた3年間でしたか。それとも想像もしていなかった3年間でしたか。この敬愛高等学校で過ごした年月の間には、様々な出来事があったことと思います。楽しかったこと、つらかったこと、悲しかったこと、皆さん一人ひとりその経験や思い出は違うことでしょう。すべての日々が、今日を迎えることができた糧になっていると思います。経験から学びがあり、その学びが成長を促します。

皆さんが入学した3年前には、想像もつかなかったことがこの2年間で起こっています。特に昨年度は、すべての学校行事が中止



となり、皆さんには悲しい思いをさせてしまいました。感染対策だから仕方がないとはいえ、納得いかない気持ちでいっぱいだったと思います。しかし、その中であって皆さんは、一人ひとりが力を発揮してこの難局を乗り越えてくれました。3年生である今年度は、修学旅行、体育大会、文化発表会など例年のようにはできませんでしたが、できる範囲での学校行事を行いました。それは皆さんや先生方による努力と工夫の賜だと思えます。課題に対して自ら考え工夫する。話し合いの中で新しい発想を生み出し実践する。その姿は、今まさに求められている、社会の変化に主体的に対応できる力を具現しているといえます。

新型コロナウイルス感染拡大の経験、このことは、わたしたちへ予測不可能なこれからの時代を生きていく覚悟を問われたように感じます。同時に、何気ない日常が、実はかけがえない大切な日々であったということに気づかされたのも事実ではないでしょうか。

「四門出遊」という言葉を皆さんは聞いたことがあるでしょうか。仏教の授業か、もしくは愛楽会のお話の中で聞いたことがあるかもしれません。現在のネパールにあった小さな国の王子としてお生まれになった釈尊（お釈迦様）は、何不自由ない生活の中で育ってまいりました。ある時父王にすすめられ、城の外に出てみることにしました。東の門から出たお釈迦様は老人を見かけます。人はみんないつかあのようになりますという従者の言

葉にショックを受けられたお釈迦様は、お城に引き返してしまいました。またある時は、南の門から外出されて、病に苦しむ病人と出会います。またしても従者から、人はみんないつかあのようになります、王子もですよと言われ気落ちしてしまいます。西の門から出た時は、お葬式の列を目にして、王子あなたもいつかは死んでしまいますと言われます。最後に北の門から出た時、晴れ晴れとした表情の気高い修行僧に出会われて、どんなに裕福であろうとも、老病死の現実からは逃れられないことや、この苦の解決のためには、真理を求めて修行するしかないことを悟られて出家されたといえます。皆さんにとって学生時代は、学校という守られたお城の中の生活であったのではないのでしょうか。これから

は門を出て、自分の足で次の世界を歩いてみてください。今まで気が付かなかった人の悩みや苦しみ、また喜びを知ることになります。目に入ってくる世の中の姿は、皆さんに様々なことを考えさせてくれると思えます。ここで見たものや、経験したことすべてがこれからの生き方の指針となっていくのではないのでしょうか。

コロナ感染拡大をだれも予想できなかったように、10年後20年後に何が待っているかわかりません。経験したことのない、考えられないような未来が待っているかもしれません。しかし、皆さんは一人ではありません。多くの人たちが支えになってくれると思います。また、多くの人たちの支えになってくだ

さい。皆さんはこのコロナ禍を乗り越えようとしているたくましい世代です。どんなに時代が変わっても、広い視野を持つて、自ら考え、自ら判断し、自ら行動することができると思っています。

皆さんのご卒業をこころからお祝い申し上げます。式辞といたします。

令和4年2月15日

敬愛高等学校

校長 日高 克巳



答 辞

木々の枝先に芽生えた命に春の気配が感じられる今日、私たちは敬愛高校を旅立つ日を迎えました。本日は私たちのためにこのような心温まる卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。在校生の皆さんや、お世話になった全ての方のおかげでこの日を迎えることができました。卒業生一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

3年前の春、私たちはこの別院で出会いました。不安を抱きながらも、これから始まる新しい仲間との高校生活に期待を膨らませていたことが懐かしいです。

初めての学年行事は宿泊研修でした。規律訓練や集団生活のなかで、クラスや学年が徐々にひとつになっていきました。担任の先生が演武で応援してくださったことは今でも忘れられません。



そして体育大会と敬愛祭。競技、展示・ステージ発表に全力で挑み、楽しみました。事前に綿密に企画し、皆の前に立つて運営する先輩方が応援団や実行委員として活躍する姿に憧れて、来年は私たちが後輩を引っ張っていくんだと意気込んでいました。しかし年度の終わりを待たず、突然の休校。2年生になって初めてクラスメイトと顔を合わせたのは6月でした。これからの学校生活は一体どうなってしまうのだろうかと思、同じ気持ちだったと思います。

敬愛高校では、たくさんの人と出会い、様々なことで助けていただきました。

時には厳しく、また時には優しくご指導くださった先生方。進路の相談をした際は、将来のことを親身に考えて、頼れる先生として導いてくださいました。休み時間には、雑談を交わすなど、気さくに接してくださいました。生徒会の無茶なお願いに時には苦笑いしつつも、なんとか実現できるよう協力してく

いただきました。私たちは、先生方のおかげでここまで成長することができました。ありがとうございます。

3年間共に過ごしてきた皆へ。入学当初は、うまくやっていけるか心配でした。でも学校生活を過ごしていくうちにいつしか、なくてはならない存在になっていました。敬愛特有の長いチャイムが鳴る中、ぎりぎりまで教室に駆け込んだこと。登下校で坂道を歩いたこと。他愛もないことで大笑いしたこと。行事前、夜遅い時間まで残ったこと。模試やテストで点数を競い合ったこと。くじけそうなき、たくさん話を聞いてくれたこと。一緒に何気ない日々を過ごす友のさりげない言葉に私は勇気づけられ、これまで頑張つてこられました。こんな友人を持って私は幸せです。ありがとう。今までのように、毎日会うことはできなくなるけれど、これからもずっと、語り合える友でいてね。



そしてお父さんお母さん。受験の時は多くを語らず二人とも私をたくましく育て上げてくれました。ありがとう。これからも夢へと進む私を応援してください。

私たちがこの三年間で身につけたのは「諦めない心」だと思います。入学当初の私たちが想像もできなかったような日々が過ぎる中、様々な困難に立ち向かい仲間と支え合うことで、今までにない経験ができました。この経験は、夢へと向かう上り坂を歩き続けるための力になると信じています。

私たちは、4月から別々の道を歩きます。今後は、敬愛高校で学んだことを胸に、それぞれの場所で自分らしく花を咲かせます。時代を一步ずつ進んでいく私たちを、どうか温かく見守ってください。

敬愛高校の益々の発展と皆様のご健勝をお念じ申し上げます。

令和4年2月15日

卒業生代表 宮下 華琳



芸術鑑賞

ひらけ！日本舞踊のとびら

文化庁のご協力をいただき、日本舞踊協会による「ひらけ！日本舞踊のとびら」を鑑賞しました。早朝から、本校アリーナに、本格的な特設舞台を作っていただき、子どもたちは驚いていました。

午前中には6年生のワークシヨップを行いました。子どもたちは浴衣に着替えて、立ち方・座り方や歩き方などの基本的な所作から教えていただき、最後はプロの方の生演奏で「風神・雷神」を舞うことができました。

午後からは、密をさけるために、1〜3年生の部、4〜6年生の部の2部に分かれて、公演をしていただきました。



開始直後から、子どもたちは日本舞踊の世界に引き込まれていきました。すつと伸びた背筋に、なめらかな動作、そして、身体に添う着物の動きから、日本の美の素晴らしさを堪能することができました。なかなか生の舞台を見る機会は少ないので、本当に貴重な体験をさせていただきました。

オリンピックメダリストとの交流会

敬愛高等学校を卒業し、今年行われた東京オリンピックで柔道女子個人57kg級銅メダル・混合団体で銀メダルを獲得した芳田司さんをお招きして、小学生との交流会を行いました。

メダル獲得までの苦労や想い、そしてこれからの抱負をお聞かせいただき、小学生からの質問にもご回答いただきました。小学生からの質問にもご回答いただきました。小学生からの質問にもご回答いただきました。



英語検定

合格者多数

1月22日(土)の放課後に本校で英語検定試験を行い、準2・3・4・5級の各級に77名の児童が挑戦しました。本校では、検定前の「英検WEEK」にて全員で英検対策の問題に取り組んだり、昼休み等を利用して、2次試験の面接個別指導を行なっています。現在、約65%の児童が英検を取得しています。

英検取得者数

2級	4人
準2級	5人
3級	37人
4級	62人
5級	46人
合計	154人

(令和4年2月現在)

ブックヘルパーによる読み聞かせ

一昨年度から子どもたちの豊かな読書活動をサポートするために保護者によるブックヘルパーをスタートしました。

昨年度、保護者の皆様の発案で、土曜日の本の読み聞かせを始めました。子どもたちは、毎回、目を輝かせながらお話を聞き、読み聞かせの時間を楽しみにしています。今年には本の魅力を紹介するブックトークにもご協力いただいています。

特集 敬愛の教育 キャリア教育

6年生は総合的な学習の時間にて、キャリア教育に取り組んでいます。その取り組みの一環として、12月4日にキャリア教育講座を行いました。

海外看護師・保育士・学校の先生・IT関連企業・テレビアナウンサー・ラジオアナウンサー(声優)・薬剤師・建築士・銀行員・専門職(ライフプラン、マネー、コンサル)・自衛官・オリンピックボランテニア・青年海外協力隊・新聞記者の14名の方に

協力いただき、具体的な仕事の内容から、働くことを通して得られる喜び、社会との繋がりなどを教えていただきました。



子どもたちは、興味のある3つの仕事をまわり、お話を聞かせていただきました。どの児童も真剣に耳を傾けていました。子どもたちの質問にも一つひとつご回答頂き、未来について、そして小学校時代の過ごし方について考える有意義な時間を持つことができました。ご協力いただいた皆様、お忙しい中、有難うございました。



幼稚園通信

成道会発表会

お釈迦様がお悟りを開かれた12月8日・成道会をご縁に、敬愛幼稚園では発表会を行っています。各学年、お遊戯や演奏、年長さんによる「親鸞様」の劇など、興味や発達段階に合わせた成長の様子を見て頂く場となっています。特に器楽の演奏は、カスタネットやピアノ、タンバリンやスズ、ハンドベルなど、それぞれの発達段階に合わせ、楽しみながら、リズム、音階など音による刺激を体感しています。一つの経験として、脳と身体に沁み込ませながら、日々練習を重ね、当日を迎えることができました。スポットライトを浴びながら、ステージ上で、たくさんのお客様の前に自己を表現することに、子どもたちは緊張以上の、恐怖感を味わうこともありましたが、それぞれの気持ちに寄り添いながら、背中を押してステージ発表に向かいます。大成功でたくさんのお称賛を浴びた時、自己肯定感が高まり、成長の一步として大きく前進していく大切な行事の一つです。小さな心にも多くの成功体験をと願っています。



園庭遊具の塗り替え

来年度、敬愛幼稚園は45周年を迎えます。園庭の遊具も設立当初からのものに加え、新しい遊具も増えています。度々塗り替えを行ってまいりましたが、この度すべての塗り替えを行いました。日頃子どもたちの声が絶えない遊具ですが、囲いをさし、少しずつ塗りがえられていく姿を子どもたちは毎日間違い探しをするかのように楽しんでいました。



私たちの声が絶えない遊具ですが、囲いをさし、少しずつ塗りがえられていく姿を子どもたちは毎日間違い探しをするかのように楽しんでいました。

敬愛幼稚園の卒園児さんが、親となって戻ってきてくれることが最近増え、園庭の遊具に目をやると、「こんなに小さかったかな？」と、遊具が、もつともつと大きくなったと感じていた事を懐かしんでくれます。親子2代で幼稚園生活を楽しんでくれる方の思いを受け止め、また、今の園児たちが親となつて戻ってきてくれる日を夢見ながら、また今の園舎、遊具に感謝しながら前進し続け、たくさんの方に愛される敬愛幼稚園でありたいと願っています。

専門教師による特別教室

敬愛幼稚園では、より高度で専門的な技術を持った専門講師による特別教室が幼稚園の教育時間内に行われています。毎週行われる英語教室では、自然と英語に親しみ会話が身に付くよう、ネイティブの先生に教えていただいています。カードやiPad、ぬいぐるみ等を使いながら、楽しんで遊びながらの時間ですが、3年間通しての毎週の学びの成果で、年長児が卒園する頃には、挨拶や簡単な自己紹介などができるようになっています。英語力だけでなく、人と会話をするときの積極性が身につくように指導をしてください、世界に羽ばたける子どもたちの育成に尽力いただいています。

体操教室は年間を通してのプログラムが確立されており、縄跳び、マット、ボール、鉄棒等、基本的な使い方から、片づけ方、またより楽しんで使える方法等、たくさんの方の技術を教えていただきます。満3歳や年少は楽しみながら体操に親しみ、年中、年長になると、はじめをつけ、スポーツには危険が伴うことも学び、話を聞く態度、機敏な動き等、日々の生活にも大切なご指導をいただいています。卒園時には全員逆上がりができることを目標に、体操教室の時間のみならず、日々努力する子どもたちの姿が見られています。子どもたちは体操の先生が大好きです。

隔週単位で絵画教室も行われています。絵画だけではなく、陶芸や木工などの体験もあり、子どもたちの感性がどんどん研ぎ澄まされます。竹ひごを使った凧づくりも毎年ご指導頂いています。今年度は親子での凧作りをオンラインで行いました。新型コロナウイルスの影響で、家庭保育のお願いをしている期間でしたので、親子で家からオンラインで参加し、幼稚園から、絵画教室を行いました。画面越しの絵画教室は初めての試みでしたが、無事完成でき、久しぶりに、みんなマスクを外した嬉しそうな親子の姿に会うことができました。

特別教室が教育時間内で行われていることを喜んでくださる保護者も多く、さらに同じ先生方が、教育時間終了後の習い事として、有料の課外教室を行っているところも喜ばれています。子どもたちだけでなく、私たち教師も専門の先生にご指導いただきながら、より高度な技術を身に付けられるよう研鑽を重ねる毎日です。





人生の転機

突然ですが皆さん、アニメは好きですか？

私は好きではありませんが、決してオタクというほどでもありません。最近興味をひかれた作品は、『ゼロから始める異世界生活』というアニメで、主人公が目覚めると異世界にタイムスリップをして冒険をするといったものです。

物語で主人公は何度も死んでは、目覚めると死ぬ数時間前にリセットされ、そこからまた同じセリフや行動が繰り返されるといふストーリーです。思い通りのシナリオに事を進めていく死に戻りループです。

これが現実であるならば過去に戻り、もう一度やりなおすことができるといふ。もし過去に戻れること

ができるなら、いろんなことが思い浮かびます。若き日の自分に戻りたい。遠く離れた親しい人との再会。あることで口論となり、友達を疑い傷つけたこと。もう少し努力をすれば今の自分と違ったのではないか・・・と考えれば尽きるのではない

失望と懐かしむ気持ちで悔やまれる思いです。自分の思い通りの人生が叶えば、順風満帆でなんの不満や絶望感に悩むことはないでしょう。

お釈迦さまは、人生は苦であると、言われました。生きるということはいいいことばかりではなく、むしろ苦難苦悩の連続で決して避けては通れない。命終わるまで繰り返しであります。

私自身、自分のことばかり考える幼年・青年とむかえた時に、苦しみにて考えたことはあまりありません。友達と今日を楽しく過ごし、何事もなく一日を終える日々が幸せだったと思います。正直学業は得意ではなかったが、苦痛ではありません。そのうち時が過ぎ年齢とともに、ご門徒のお育てにあうことで、今まで

の自分を変えていかなければならぬ思いになりました。私にとつては、日々精進です。アニメのような人生も悪くないです。しかし、理想ばかりでなく現実目を見ることが大切であります。

煩悩にまなこさへられて
煩悩の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわが身をてらすなり
(親鸞聖人・『高僧和讃』)

欲望(煩悩)に執着している私達は、理想ばかり追いかけていることに気がつかない。阿弥陀如来は、大悲のお心で休むことなくはたらきつづけ、常に区別なく私達を照らし真実へと導きくださっています。

今年度卒業の皆様、本当にお疲れ様でした。進学する方、就職する方、それぞれの道を焦らずゆつくりと歩まれてください。失敗したとしても必ず努力はいつか報われる日がくるでしょう。

合掌

吹奏楽部 中学・高校 アンサンブルコンテスト県大会 W 出場



第54回北九州アンサンブルコンテストが11月28日(日)に黒崎びびしんホールで開催され、中学・高校ともに打楽器三重奏で出場しました。

中学チームは金賞を受賞し、3年連続3回目の県大会推薦、高校チームは僅差でおしくも銀賞でしたが高校の部としては初の県大会推薦をそれぞれいただくことができました。中高揃っての県大会出場は創部以来初めての快挙です。その後、第15回福岡県アンサンブルコンテストが12月25日(土)に中学の部、26日(日)に高校の部とそれぞれイヅカコスモスコモンで開催され、中高ともに銀賞を受賞しました。昨年に続く九州大会への推薦は叶わなかったものの、コロナ禍の中、臨んだ大会で中高ともに県大会出場を果たすことができました。またいつか以前のような活動ができるようになった時のために、この経験を活かし今できることに精一杯取り組みます。

応援、励ましをいただいた皆様をはじめ、たくさんの方々のおかげで成長できています。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



©大阪フォトサービス

平成7年度卒業 池上 知妙さん



皆さん初めまして。池上知妙と申します。

私は中高と敬愛で学び、武蔵野音楽大学を卒業しました。平成11年よりタイ・バンコクの日本人学校で音楽専科教員、平成14年からは敬愛中と開校したての小学校でも音楽講師をさせていただきました。その後イギリスの公立小学校でのインターン研修等を経て、現在は門司で音楽教室を主宰しつつ、ラテン音楽ユニットや地域の活動をしています。

皆さんは、国の登録有形文化財に指定されたミャンマー寺院・パゴダをご存じですか？関門海峡そばの山頂にそびえる金色の塔です。ここではミャンマー僧侶が太平洋戦争の戦没者慰霊、世界の安寧のために毎日祈りを捧げています。私は3年前より、日本から中古ランドセルを

ミャンマーの子供達へ贈る活動に従事しましたが、そのご縁でミャンマー僧侶が、日本人も共にお経が読めるよう、パリー語をカタカナ表記にしてお手伝いもしました。私は僧侶でもなくお経に詳しくもありませんが、始めに記したのは、なじみある「三帰依」です。国やスタイルは違っても同じ仏教に親しみを覚えました。

昨年来ミャンマーでは、コロナ禍に加え、政変で国が大変困難な状況です。一瞬はニュースで取り上げられますが、日本で暮らしていると、現地の危険や弾圧と隣り合わせの状況は分かりません。「日本をはじめ、国外の人々に関心を持ち続けて欲しい」。これは現地で働く知人の言葉です。直接の支援はできなくとも、何が起きてどんな状況なのか、ネットなどを通じて情報を得ることはできます。自分の生活とは離れた世界でも、頭の片隅に置き、関心を持っている事で力になりえるのです。これはミャンマーに限らず、紛争や大災害で困難を抱える他の国、地域にも言えると思います。

最後に、コロナ禍にある今、心病を抱える人が多い事を感じます。思うような活動が難しい中がんびり過ぎたり、ストレスを溜めてしまったり。自分を労わり、励ます一番の理解者は自分自身です。遠い世界も見て、自分自身の声も感じるバランスをとりながら、皆さんが充実した人生を歩まれることを心より願っています。



高校1年生総合的な探究の時間

高校1年生の総合的な探究の時間では、SDGs企業連携プロジェクトと題した探究活動を行なっています。生徒自らがニュースや地域企業、SDGsなど様々な観点から地域や社会の課題を見つけ、そして解決策を提案します。



12月10日(金)には、6月から始めたこのプロジェクトの全体発表を行いました。各クラスから選ばれたグループが、ゲストティーチャーを前に自分たちの考えを言葉で伝えました。どのグループもフィールドワークなどで深めていった考

えや解決策を、堂々と発表していました。最終的にはゲストティーチャーや生徒たちの評価をもとに最優秀グループを選出し、表彰しました。



多くの大人の前でプレゼンテーションやその後の質疑応答はなかなか経験できないものです。生徒たちは緊張していましたが、とても良い経験になったようでした。

東京 2020 オリンピック 銅メダリスト芳田司選手凱旋

東京 2020 オリンピック・柔道女子 57kg 級に、本学園の卒業生である芳田司選手が出場し、見事銅メダルに輝きました。また、団体戦にも出場し、銀メダルを獲得しました。敬愛からのオリンピック初メダリストとして、母校への凱旋です。鎮西別院本堂で芳田選手をお迎えし、オリンピック報告会を行いました。その中で芳田選手は改めて多くの人たちの応援に対して感謝の思いを述べられました。生徒からの質問に対しても丁寧にわかりやすく答えてくれました。報告会が終わった後、芳田選手の周りにはたくさんの生徒たちが集まり、2つのメダルを触らせてもらいながら、メダルの重さにびっくりしていました。敬愛柔道部は、全国優勝をするなどオリンピックのメダルを目標に頑張っています。芳田選手から激励を受けた柔道部員たちは、とても気持ちが高まっていました。芳田選手のますますの活躍を敬愛は応援しています。



KEIAI LABO

未来への学び

取り組み紹介

今年度から KEIAI LABO という新しい取り組みをスタートさせました。KEIAI LABO とは、教科を超えた未来への学びを生徒たちに提供する取り組みです。放課後に希望者対象で興味のある講座を受講できます。予測不可能な時代を生き抜くためにも、幅広い学びから将来のことを考えていくことはとても大切です。しかし、コロナ禍ということもあり、そのような学びを自ら取り入れていくことは難しいことです。たとえ興味があっても、一人で飛び込んでいく勇氣は中々持てないものです。授業中に手をあげて質問する以上の勇氣が必要に感じることでしょう。勇氣のハードルを下げるために、興味のある講座に自由に参加できる気軽さを取り入れました。

今年度はこれまでに、「地域活性化と着物着付け講座」「アントレプレナー講座」「未来の戦略&スマブラ講座」「海外ボランティア講座」「海外看護師から学ぶアメリカの医療現場講座」の5講座を実施しました。生徒の皆さんには KEIAI LABO を通して、少しでも未来の学びに繋げてほしいと思います。

(アントレプレナー講座に参加した生徒の感想)

ゲーム感覚で経営について学ぶことができわかりやすかったです。会社を作ることそれらの維持にお金がかかることはわかっていただけ、そのほかにも細かいところでお金があることを知り大変なことなんだと改めて知ることができました。

[お知らせ]

KEIAI LABO で講師を引き受けていただける方がいらっしゃいましたら、QR コードからお知らせください。



KEIAI LABO 希望講座
入力フォーム

